



仲田小だより

日野市立仲田小学校 校長 山本 剛秀

令和5年6月30日 7月号

TEL 042-581-8511

FAX 042-581-8512

HP <https://www.hino-tky.ed.jp/e-nakada/>

教育目標 ○すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子

諦めずに挑戦し続ける

校長 山本 剛秀

梅雨の時期のため、不安定な天候が続いています。5月は5年生の八ヶ岳移動教室、6月は6年生の日光移動教室を実施しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからの実施となり、行動制限がない移動教室でした。子供たちは生き生きと活動し、充実した移動教室になりました。また、6月の学校公開もコロナ前と同様の人数制限がない公開としました。来年度入学予定の園児の保護者や地域の方も参観していただきました。しかし、東京都の新型コロナウイルス感染者は5類移行1か月で倍増したとの報道があります。新型コロナウイルス感染症が完全に終息した訳ではありません。引き続き、健康管理へのご協力をお願いします。

さて、将棋の藤井聡太棋士が、名人戦で渡辺明九段に勝利し「名人」を獲得し、20歳10か月で、七冠（竜王・名人・王位・叡王・棋王・王将・棋聖）を達成しました。羽生善治九段の最年少記録を27年ぶりに塗り替え、史上2人目の七冠達成です。将棋界には現在、8つのタイトルがありますが、そのうちの7つのタイトルを獲得したのですから、並大抵なことではありません。

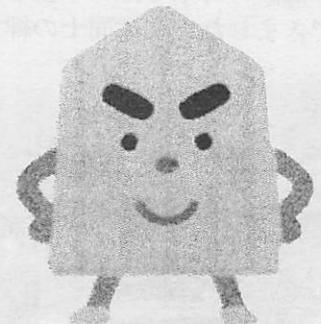
では、藤井棋士のこの強さの秘密は何でしょうか。人並外れた集中力や粘り強さなど、様々なことが考えられます。

幼いころから詰将棋が好きで、新聞を隅々まで読み、自宅にある本を片っ端から読んだ藤井棋士。小学生の頃は、将棋のことを考えながら道を歩いていて、何度かドブに落ちてしまったというエピソードもあります。また、負けず嫌いな性格で、子供の頃は負けるたびに号泣していたとのこと。負けを悔しいと感じ、それをバネに力を付け、一步また上のステージに上がってきたのでしょうか。

14歳2か月で中学生棋士としてプロデビューし、17歳11か月での最年少でタイトル（棋聖）を獲得するなど数々の記録を塗り替えてきました。藤井棋士の師匠である杉本正隆棋士は、著書『悔しがる力 弟子・藤井総太の思考法』で、「今の時代、『悔しい』と口に出すことや、実現できないことにいつまでもこだわる『あきらめない』気持ちははやりません。（略）しかし、藤井七段をはじめ、スポーツ選手など各界の最前線で活躍している人たちは、総じて並外れた負けず嫌いです。そして決してあきらめません。（略）つまり悔しがること、あきらめの悪さは一つの力だと言えます。」

あるインタビューで将棋について聞かれると、「たくさんの候補の中から最善の手を探すのが、本当に単純に楽しい。」と藤井棋士が話していました。

今の子供たちは、すぐに諦めたり、失敗を恐れたりする傾向があります。大事なことは、失敗を恐れず、諦めずに挑戦し続けることだと思います。仲田小の子供たちには、藤井棋士のように、考える楽しさを味わい、最後までやり遂げる諦めない力を付けてほしいと思います。そして、とことん取り組めるものに出会えることを願っています。



令和5年度 第1回学校運営連絡協議会

6月8日(木)、令和5年度第1回学校運営連絡協議会を開催いたしました。この会では、学校評議員の方から、学校運営全般に関わることについてご意見やご提案をいただいたり、よりよい運営に向けての協議をしたりします。

以下の方々が、今年度の委員の皆様です。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

会長 石川俊一(本校学校医)
副会長 柳元太郎(本校元校長) 太田日香里(学校支援コーディネーター)
委員 三浦修子(至誠第二保育園園長) 山口慶隆(保護司)
下田圭子(主任児童委員) 和田栄治(日野第一中学校校長)
伊豆本達朗(警察官) 天野武雄(自治会長代表)
山田義良(ひのっちコーディネーター) 中川ひろみ(NPO法人子どもへのまなざし代表)
茂木暖子(PTA会長)
教職員 山本剛秀(校長) 諏訪禎久(副校長) 久保田聡(教務主幹教諭)
黒地晃一(生活指導主幹教諭)

※順不同・敬称略

第1回の協議会では、学校から「今年度の学校運営方針」「年間行事予定」「児童の様子」を報告し、評議員の皆様からは次のようなご意見やご感想をいただきました。委員の皆様、どうもありがとうございました。

- 第3次日野市学校基本構想について、具体的にどのような取組を学校で行っているのか。
⇒(学校側の回答)児童同士の教え合い活動をすすんで取り入れたり、一人一台端末を用いて個別の調べ学習や問題演習を取り入れたりしながら、一律一斉の学びから、自分に合った多様な学び方へのシフトチェンジを図っている。また、今年度から地域をステージにした教育活動(地活)を校内研究のテーマとして取り入れ、地域の中で自ら学び考える児童の育成を目指していく。
- 学校選択制に伴い、児童が増えてランチルームも無くなった。教育活動にひずみが生じないか心配である。
- 学校の規模にあった児童数で、余裕のある教育活動を展開するのが良いのではないか。

6年生 日光移動教室(6月20日~22日)

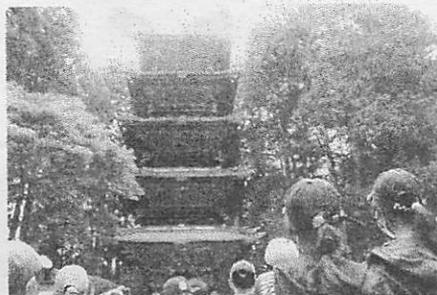
6月の移動教室に向けて、日光の自然や歴史について学んできた6年生。実際に体験することを楽しみにしながら、3日間活動してきました。

1日目の日光東照宮では、鳴き龍や眠り猫、家康の墓などを実際に見学しました。観光客も多く、かなりの人出でしたが、「家康のお墓が大きくて立派だった」など、子供たちは思い思いに振り返っていました。華厳の滝では、実際に滝の水が流れ落ちる迫力に「すごい」と圧倒され、自然の雄大さを感じることができました。

2日目のハイキングでは、ネイチャーガイドさんと一緒に、班でハイキングコースを回りました。鹿が木の樹皮を食べてしまい、木が枯れるのを防ぐため、木の周囲に防皮ネットが貼られている様子を見るなど、自然を保護するための工夫や努力を学びました。午後は、中禅寺湖の遊覧船に乗りました。自然の美しい景観や歴史的な建造物を横目に、心地よいクルーズを楽しみました。

3日目は、ふくべ細工を体験しました。前もって準備していた下絵をもとに、思い思いの作品を仕上げました。磐梯日光ドライブインでは、おみやげを購入しました。しおりに代金をメモし計算しながら楽しく買い物しました。

梅雨の時期ではありましたが、天候不良による行程の変更などなく、学年全体で楽しい思い出を作ることができました。友達同士の絆もより深まり、ひとまわり成長して、帰ってくることができました。



5月と6月の主な学校行事から



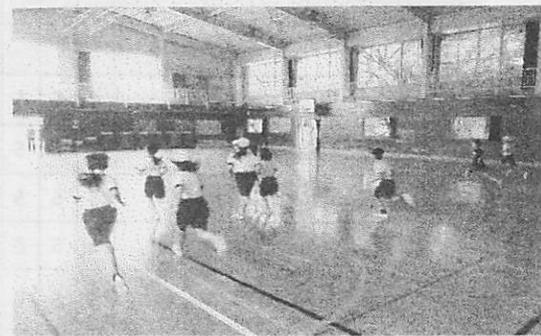
5月30日・31日 八ヶ岳移動教室（5年）
牧場体験やハイキング、キャンプファイヤーなど自然とたくさん触れあい、仲間と協力して過ごすことができました。



6月3日 水道キャラバン（4年）
東京都水道局の皆さんをお招きし、水源林やダム、水をきれいにする仕組みについて、実演や映像で学びました。



6月7日 セーフティ教室教室（全学年）
下学年は不審者への対応の仕方、上学年はスマートフォンの安全な使い方について、デモンストレーションを交えながら学びました。



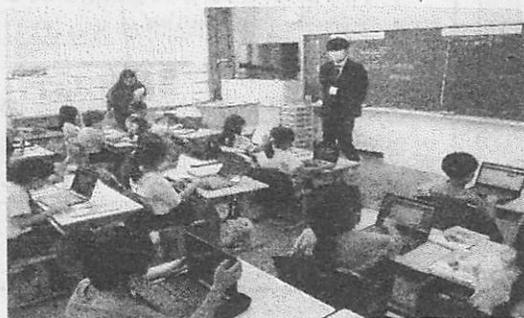
6月8日・9日 体カテスト（全学年）
2日間をかけ、校庭と体育館で体力テストを行いました。子供たちはみな、去年の自分の記録を超えようと、一生懸命取り組みました。



6月15日 そらまめのさやむき（1年）
「ふわふわだね。」「3個入っているよ。」と楽しくお手伝いしました。給食の時間には、塩ゆでしたそらまめをおいしく食べました。



6月13日 桑の枝切りとじん皮取り（4年）
和紙の材料作りをしました。枝切りは、友達と協力して行いました。枝からじん皮を取れたとき、子供たちは嬉しそうでした。



6月16日 教育実習（2年）
2年3組で約1か月間、教育実習生が実習を行いました。実習最終日、最後まで子供たちは実習生のそばを離れず、別れを惜しんでいました。



6月23日 町探検（2年）
「まちのすてき」を見付ける探検をしました。行きたいお店や気になる方のもとへ行き、質問したり観察したりするなど、興味高く調べていました。

